

ヒメケフサイソガニ

岡山県：絶滅危惧Ⅱ類

十脚目

Hemigrapsus sinensis (Shen)

環境省：該当なし

モクスガニ科

選定理由

生息密度が低く希少で、生息地が局限される。

存続を脅かす要因

河川開発（護岸工事）、用水路改修、川相変化、海岸開発（護岸工事、干潟減少、干拓、埋立）、水質汚濁、産地局限

分布状況

県内では岡山市東区犬島の釜の瀬戸及び備前市日生町鹿久居島で確認されている。

県外では和歌山県紀ノ川、山口県有帆川、有明海、鹿児島湾重富海岸などから知られている。

生息情報

同属のケフサイソガニ (*H. penicillatus* (de Haan)) に似るがより小型で甲長9mm、甲は丸みを帯びた長方形で茶褐色、側縁に3個の歯を持ち、背面前方に横向きの白色帯がある。鉗脚は雌雄とも顕著な軟毛の房を具える（ケフサイソガニの雌はこれを欠く）。内湾奥河口部汽水域の岩礫地において、マガキの間や転石下に生息する。従来は極めて希な種とされていたが、近年各地で新産地が相次いで見出されている。岡山市犬島の産地は、砂泥干潟を3cmほど掘ると還元層が現れて悪臭を発生する場所であったにもかかわらず、本種はハクセンシオマネキなどとともに確認された。鹿久居島は養殖されたマガキの殻が底質を覆いつくすほど大量に散乱した場所に生息していた。このため、本種は多少富栄養化した環境でも生息可能と思われ、他の河口を精査すればさらに産地が増加する可能性もある。

(福田 宏)



ウモレベンケイガニ

岡山県：準絶滅危惧

十脚目

Clistoceleoma sinense Shen

環境省：該当なし

ベンケイガニ科

選定理由

生息条件が悪化し、産地・個体数ともに減少傾向にある。

存続を脅かす要因

河川開発（護岸工事）、用水路改修、川相変化、湿地開発（ヨシ原減少）、海岸開発（護岸工事、干潟減少、干拓、埋立）、水質汚濁、産地局限

分布状況

県内では岡山市東区乙子の永江川と吉井川の合流点付近で確認されている。

県外では東京湾以南、沖縄県久米島まで分布し、相模湾、伊勢湾、瀬戸内海など大規模な内湾から知られている。

生息情報

甲長15mm、甲は横長の長方形、干潟の泥と見分けのつけがたい茶褐色で、表面は顕著な凹凸を持ち、前側縁に3歯がある。雄では鉗脚の掌節前半と指節は無毛で、指節上部辺縁に横向きの長い顆粒列を具える。鉗脚先端はオレンジ色。大規模な内湾奥の良好な状態に保たれた河口部汽水域泥底において、ヨシ原中の湿った朽木下に生息し、オカミミガイ類等の貝類と同所的に見られることが多い。恐らく閉め切り前の児島湾奥部には多産していたと思われるが、現在の岡山県では生息可能な場所が著しく少ない。

(福田 宏)

